

《担当者名》教授 / 泉 剛 教授 / 飯塚 健治 教授 / 柳川 芳毅

【概要】

薬理学特論 に引き続き、薬理学、毒理学、病態生理学に関連する以下の講義を受講することにより、応用薬理学領域の専門的知識を総合的に修得する。

- ・自律神経薬理学および循環器薬理学を中心に実験計画や実験手法を理解し、細胞内情報伝達の分析方法、受容体との関連性について学ぶ。
- ・肝障害や腎障害の発現機序を学び、薬物の体内での運命が毒性発現に如何に関わってくるかを理解する。また、小児、高齢者、妊婦における薬物療法の基本的注意事項について理解する。
- ・身体的・精神的ストレス疾患(不安障害・気分障害など)および酸化ストレス疾患(パーキンソン病など)の病因や病態について学び、ストレスが引き起こす疾病の背景を理解する。

【学修目標】

- ・自律神経系および循環器系に作用する薬物に関する最新の情報を説明できる。
- ・細胞内情報伝達の分析方法、受容体との関連性について最新の情報を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	肝疾患・胆道疾患	薬物代謝に影響を与える肝疾患や胆汁流出経路の疾患の病態生理について説明できる。	泉 剛
2	薬物性肝障害	薬物性肝障害の分類、発生機序、障害指標について説明できる。	泉 剛
3	腎疾患	薬物代謝に影響を与える腎疾患の病態生理について説明できる。	泉 剛
4	薬物性腎障害	薬物性腎障害の分類、発生機序、障害指標について説明できる。	泉 剛
5	作業関連疾患(1)	精神的ストレスが原因とされるうつ病、神経症、胃潰瘍、過敏性腸症候群などの病態について説明できる。	泉 剛
6	作業関連疾患(2)	環境要因、業務・労働要因によって生じる疾患の病態生理について説明できる。	泉 剛
7	加齢と薬物治療	加齢に伴い高齢者にみられる薬物反応の変化を、薬物動態や薬力学との関連させて説明できる。	飯塚 健治
8	妊婦の薬物療法	体液量と腎機能の変化する妊婦自身への薬物治療と妊娠高血圧症候群の病態について、また、胎児への影響を配慮すべき薬物について説明できる。	飯塚 健治
9) 11	循環器系に作用する薬物の薬効解析	循環器系並びに自律神経系に作用する薬物の薬効解析に関する英語論文を邦訳し、その概要を説明できる。	飯塚 健治
12) 15	細胞内情報伝達系の分析	細胞内情報伝達系および受容体の分析法に関する講義と関連する英語論文を邦訳し、その概要を説明できる。	柳川 芳毅

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業態度(30%)および課題レポート(70%)

【教科書】

New薬理学(南江堂)

【参考書】

薬理学実習の実際とデータの見方（南山堂）

内科学書（中山書店）

新臨床内科学（医学書院）

【学修の準備】

学修テーマに関連した薬物の基礎薬理学知識を整理しておくこと。